

新潟県中越地震で被災されているグループホーム関係者に支援を！！

日本グループホーム学会 代表 室津滋樹

10月23日午後5時56分に新潟県中越地方で発生した地震から1週間が経ちました。その後、今も余震が続いており、多くの人たちが危険な建物から避難しています。各地で初雪情報が聞かれる季節となり、冷え込みも厳しくなっている中で避難生活を余儀なくされている人たちの様子が連日報道されております。寸断した道路や線路の回復等が進まず、避難生活が長期化していく中で、災害弱者のみなさんの避難生活も日を追って厳しさを増していることと思われまます。

湯の谷村にある「障害児者生活支援センター・かけはし」のセンター長・佐藤さんのおはなしによると、「地震直後は6カ所にある関連グループホームの状態を把握することも困難で、特に震源地に近い小千谷市にあるグループホームとは電話もつながらず、車でも行けず、2日間にわたって連絡が取れなかった。その間、世話人さんが自宅にももどらず入居者とともに避難されていた」とのことです。他ホームでも入居者が大きな避難所に避難することはむずかしく、かけはしにも避難しているとのことです。

新潟県の障害福祉課が出している「平成16年新潟県中越地震における身体障害者・知的障害者・障害児施設の被害状況」によると、建物のひび、設備被害、地面の亀裂、陥没、天井の落下等、危険な状態にある施設もたくさんあり、他の施設に避難しているところもあるようです。

知的障害者のグループホーム30カ所のうち、22カ所がホームを離れて避難しているようです。近日中にホームにもどる見通しがたっているところは3カ所。地域に避難指示や避難勧告が出ているところ、ホームの近くの山が崩れそうでもどれないところ、世話人が被災し援助者が不足していてホームでの生活ができないところ、ホーム入居者の避難生活は長期化するものと思われまます。また状況はわかりませんが、被災地付近には精神障害の方々のグループホームも15カ所あるとのことです。

支援センターかけはしより「テントと発電機・投光器が必要」との話があり、会員のみなさまに呼びかけて早手配いたしました。長期化する避難生活とその後のグループホームの立て直しには多くの援助が必要と考え、日本グループホーム学会では全国の会員はじめ関係のみなさまに義援金を呼びかけることになりました。

みなさまから寄せられた義援金は、今回被災されたグループホームの立て直しのために役立てるものです。多くのみなさまのご協力、ご支援をお願い致します。

義援金振込先； 日本グループホーム学会 代表 室津滋樹
横浜銀行本牧支店 普通 1325925

* 銀行口座のため、振込者を12字しか打ち込めません。社会福祉法人とかグループホーム等を省略し、直接お名前を記入してください。

(例； × グループホームホンモクセイカツノイエ ホンモクセイカツノイエ)

また義援金をお送りいただいた方々へのご報告は、季刊グループホーム誌上に掲載いたしますので、よろしく願いいたします。